

基礎講座

忘れられつつある危機 —シエラレオネの子どもたち



10年に及んだ内戦が終結して3年。「危機にさらされる子どもたち」の具体例として、今も内戦による深い傷をかかえながら、内戦の終結とともに、国際社会から「忘れられつつある危機」にあるシエラレオネの子どもたちについて、ユニセフ・シエラレオネ事務所 ねもとみお 根本巳欧さんの報告をご紹介します。

シエラレオネ：面積は北海道と同じくらい。人口は約500万人。美しい海岸が広がっていますが、道路は舗装されておらず、電気がくるのは首都フリータウンを含めて3都市のみ。紛争後のインフラ整備が遅れ、人びとの生活環境は非常にきびしい。

世界で最もきびしい生活環境

シエラレオネは、5歳未満児死亡率が世界で一番高い国です。それは幼い子どもが育つ環境が世界で一番きびしいということです。また、国民の平均寿命は34歳で、世界で最も短命な国のひとつです。一日1米ドル以下で暮らす人の比率（貧困を示す指標）は57%にもなります。安全な水を使える人、子どもが生まれた時の出生登録、小学校就学率、おとなの識字率のいずれの割合も低く、地域の格差、男女の差もあります。また、HIV/エイズの広がりも大きな問題となっています。

	シエラレオネ	世界平均	日本
5歳未満児死亡率 (千人あたり/2003年)	284人	80人	4人
出生時の平均寿命 (2003年)	34歳	63歳	82歳
1人あたりの国民総所得 (2003年)	150米ドル	5,488米ドル	34,510米ドル

世界で最も残酷な武力紛争の影響

10年に及んだシエラレオネの内戦は、子どもたちが組織的に暴力のターゲットにされた世界で最も残酷な内戦のひとつでした。ユニセフの推定では、約1万人の子どもが兵士として戦いの道具にされました。多くの少女がレイプ、虐待の被害者になり、多くの女性と子どもが難民・国内避難民となりました。子どもたちはさまざまなかたちで内戦の被害を受け、



元少年兵の子どもたちが社会復帰の研修を受ける
©UNICEF/Sierra Leone

紛争が10年も続いたために平和な生活を知らないなど、心理的な影響も残っています。



©UNICEF/Sierra Leone

●子どもの事例（1）

コノのレインボーセンター（性的暴力の被害者を助けるためのセンター）に保護されたクンバさん（17歳 女の子）

内戦中に両親が殺され、その後、おじさんから3年以上も性的虐待を受けていました。センターで職業訓練を受け、自立をめざしていますが、「戦争は私の人生を変えてしまった。できることならもう一度学校に戻って先生になりたい」と話しています。

内戦後の子どもたちとユニセフの取り組み

平和が訪れた今、内戦中に行われた暴力行為、暴力の連鎖をどう食い止めていくかが重要です。紛争が日常的だったため、人びとの感覚が麻痺していることもあり、特に女性や子どもに対する暴力をいけないことだと認識している人が非常に少ないという現状があります。ユニセフは、女性を殴ったり、レイプしたりすることは罪であると伝える活動をしています。また、ストリートチルドレンの増加、子どもによる犯罪、子どもの人身売買などが大きな問題となってきています。

●子どもの事例（2）

フリータウンの少年拘留所に拘留されているアブドゥル君（12歳 男の子）

路上で携帯電話を盗んだ罪で警察につかまり、9カ月も拘留されたまま、裁判の目途もたっていません。家族も引き取りを拒否しているので、いつ拘留所から出られるかもわかりません。



©UNICEF/Sierra Leone

内戦で家族の生活がふみにじられ、ストリートチルドレンとなり、お金を手に入れるために罪をおかしてしまったのです。ユニセフは拘留所でも子どもの権利が守られるように働きかけています。

進路学習の参考に！

報告者の根本巳欧さんは日本ユニセフ協会広報室に勤務した後、ユニセフ職員となり、現在、シエラレオネ事務所に勤務しています。ユニセフで働く現在の気持、進路選択の時に考えたことなどについて、シエラレオネからメールで答えてくださった内容を今号のP.5～6で紹介しています。ユニセフで働くことを希望している方や、進路学習の参考にぜひお役立てください。

くわしいシエラレオネ報告

- ・協会のホームページで、シエラレオネ報告の詳細をご覧ください。
http://www.unicef.or.jp/siryu/sek_rep22.htm
- ・ユニセフ募金協力者・協会会員向けのニュースレター「ユニセフニュース」206号にも根本さんの投稿記事が紹介されています。

アフリカ緊急募金にご協力を！

- ・郵便振替:00190-5-31000
- ・口座名義:財団法人日本ユニセフ協会

- * 振込用紙をご希望の際は学校事業部へご連絡ください（P.2参照）
- * 通信欄に「アフリカ」と記入してください

- ・インターネットからも募金を受け付けています
<http://www.unicef.or.jp> 「協力する方法」